



IDF PRESS RELEASE

IDFプレスリリース

2019年10月29日、ブリュッセル発

酪農乳業の安全性を確保するために重要な効果的プロセス監視 Effective process monitoring key to ensuring dairy safety

食品安全と健康への取り組みの一環として、国際酪農連盟は本日、乳製品のリステリア汚染リスクを最小限に抑えるために製造プロセスで実施できる付加的な行動を概説した新しい手引きを発表しました。

病原菌リステリア・モノサイトゲネス (*Listeria monocytogenes*) によって引き起こされる発生頻度が低くて重篤な食物媒介性疾患であるリステリア症に対する防御は、食品産業にとって非常に重要です。

酪農乳業では、パストリゼーション（※訳注：低温殺菌のひとつ）がリステリア症発生率の低下に大きな影響を与えましたが、加工済み乳製品の汚染は未だ稀に発生します。1985年から2019年の間に、商業的にパストリゼーションされた乳製品に関連したリステリア症の大規模な発生が40件確認されています。発生源が同定されたほとんどの事例では、乳業処理（製造加工）環境およびパストリゼーション後の相互汚染のせいで起きた最終製品汚染の箇所でリステリア・モノサイトゲネスが発見されました。

乳業製造プロセスでのリステリア汚染リスクをさらに最小化するために、IDFは新しいブリテン「*Listeria* 属と *Listeria monocytogenes* の生態 - 乳業製造における重要性」を作成しました。このブリテンは、乳製品のリステリア・モノサイトゲネス汚染のリスクを最小限に抑えるために、食品製造プロセスで実施されるべきリスク領域および対策をまとめています。

刊行物の主執筆者であり、IDF 微生物学的衛生常設委員会の現委員長であるフランソワ・ボーディション François Bourdichon 氏は次のように述べています：

「乳業製造加工環境内での効果的なハザードの管理および分析は、リステリア・モノサイトゲネスによる汚染の可能性を最小限に抑えることができ、したがって、より良い食品安全性の保証を与えます。このブリテンは、汚染を防止し、健康的な食事に欠かせない乳製品の安全性を保証するために、実施が必要とされる追加的な手段の詳細を提供します。」と、ボーディション氏は語りました。

発生源の追跡における最近の進歩は、常在菌株、それらの洗浄剤に対する耐性、および乳製品の接触面への付着の特性の評価に役立ちます。制御手段は、より適切な衛生設計と化学洗浄剤使用のための適正な根拠とともに、目的に合わせてカスタマイズが可能です。

適正な搾乳慣行によって加工乳製品におけるリステリア・モノサイトゲネスの発生率が低下するとともに、パストリゼーションによって加工乳のリステリア・モノサイトゲネス汚染（もしあれば）を低下させます。プロセス環境の監視は、再汚染を防ぎます。酪農乳業チェーンのすべてのステップに付加的な知識を提供することにより、IDF の活動は、より安全な食品に再び貢献しています。

IDF ブリテン 502/2019「[リステリア属とリステリア・モノサイトゲネスの生態学 - 乳業製造における重要性](#)」は、[IDF ウェブサイト](#)で本日から入手可能です。

完

翻訳：J I D F 事務局

編者注：仮訳の正確性、完全性、有用性等についてはいかなる保証をするものではありません。参考資料として扱い、内容に疑義が生じた場合は英文の原文をご確認ください。